

10月14日のウライナ情報

安斎育郎

●ヨーロッパの状況(2022年10月11日)

投稿者コメント:このウクライナ危機によりヨーロッパは大転落中。アメリカ資本がごっそりヨーロッパ全体を支配してまさに世界の王になろうとしている。これ以上のエネルギー危機はヨーロッパ人の大暴動に発展しかねない。ヨーロッパでロシア派が急増中。

●プーチンのヨーロッパ市民観(2022年10月11日)

<https://twitter.com/mT33comakoto/status/1575514996515438594?t=VzFRXVfwxcqTcUgVEnn5Pg&s=09>



●ウクライナの汚職についてのトランプ発言(投稿:2022年10月11日)

トランプ大統領のウクライナの腐敗についての発言を聞いたゼレンスキーの慌てた顔

https://twitter.com/monmi_1st/status/1579698849467097088?t=pTXyLmhqGj45fhLYxaf05A&s=09



●第6回アジア相互信頼醸成措置会議(2022年10月11日)

カザフスタン・アスタナで13日、第6回アジア相互信頼醸成措置会議(#CICA)が開幕した。会議には開催国カザフスタンのほか、ロシアやトルコなど計11カ国首脳が出席。CICAはアジアにおける平和、安全保障、安定を目的とした協力深化のための国際フォーラム。

https://twitter.com/sputnik_jp/status/1580451651768684546?t=9ptAcon36SaqfspNsMHJaQ&s=09



●スペインの雑誌『木曜日』、「ロシアのミサイルぶっかけ」(2022年10月13日)

スペインの雑誌が出した面白い表紙は、こんな感じです。ゼレンスキーは「ロシアのロケットぶっこみ」(Bukkake)という見出しがついています。(※安齋注:bukkakeには卑猥な意味が)



●ドンバスでのロシア・ボランティアによる人道支援(2022年10月13日)

ロシア全土から集まったボランティアが、ドンバスで解放されたばかりの地域に人道支援物資を届けます。その住民は、ロシアからの人道支援に頼っています。撤退したウクライナ軍は焦土戦術をとり、民間人を殺害し、家やインフラを破壊しました。

<https://twitter.com/RusEmbassyJ/status/1580435414103764992?t=JqJRtasvKko1jZEaQNXtGw&s=09>



●マクロンがウクライナに防空体制提供(2022年10月13日)

[パリ 12日 ロイター] - フランスのマクロン大統領は12日、ウクライナに対して数週間以内にレーダーと防空システムを提供すると表明した。特にドローンとミサイルからの防衛に主眼を置くという。フランス2テレビとのインタビューで語った。

ただ、対空ミサイルの種類や規模など詳細には触れなかった。

今週はウクライナの都市を標的に一連の攻撃が行われたことから、同国は防空システムなどの追加提供を求めているが、フランスはこれまで同システム提供に消極的だった。

マクロン氏は「爆撃は地上、海上、上空、ドローンから必需のインフラや市民に対して行われる新たな段階に入った」と指摘。「(ウクライナを)ドローンやミサイルによる攻撃から防衛するため」、数週間以内にレーダーおよび防空ミサイルを提供すると説明した。

フランスはこれまでに携行型の地対空ミサイル「ミストラル」をウクライナに提供。消息筋は、今回は低空飛行ミサイルなどを迎撃する短距離対空ミサイル「クロタル」を提供するだろうと述べた。

<https://twitter.com/ReutersJapan/status/1580442048330665986?t= oA CA 6tejrs6vb dlmIA&s=09>



●ウクライナの NATO 加盟は第 3 次世界大戦のリスク孕む(2022年10月13日)

[13日 ロイター] - ロシア連邦安全保障会議のアレクサンドル・ベネディクトフ副書記は13日、国営タス通信とのインタビューで、ウクライナの北大西洋条約機構(NATO)加盟が第3次世界大戦を引き起こす可能性があるとして述べた。

「ウクライナはこのような措置が間違いなく第3次世界大戦に至ることを意味すると十分認識している」と指摘。また、ウクライナ支援により西側諸国は「紛争の直接の当事者」になっているとするロシアの見解を繰り返した。



NATO の旗

●国連が4州併合非難決議(2022年10月12日)

国連総会、ロシアの4州併合非難決議を採択 143カ国が賛成。ロシアのほか、シリア、ニカラグア、北朝鮮、ベラルーシが反対。中国を含む35カ国は棄権。ブリンケン米務長官が100カ国以上の外交官に決議案への賛成を訴えるなど、欧米諸国は外交的な働きかけをしていた。

https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1580400119253344256?t=oWbn_ywbWyipNuSljCkR_Cw&s=09



●米など約50か国 ウクライナへ長期的に軍事支援続けること確認(2022年10月13日)

ウクライナ軍がロシア軍に対する反転攻勢を強める中、アメリカなどおよそ50か国が参加する会合が開かれ、参加国はウクライナに対して長期的に軍事支援を続けることを確認しました。

この会合はウクライナへの軍事支援について協議するためにアメリカが主催して定期的に行われていて、12日、ベルギーの首都ブリュッセルで開かれている NATO=北大西洋条約機構の国防相会議に合わせて6回目の会合が開かれ、アメリカやヨーロッパの国々などおよそ50か国が参加しました。

はじめにアメリカのオースティン国防長官は最近の戦況について、「プーチン大統領の新たな攻撃にもかかわらず、ウクライナ軍は流れを変え、ロシア軍の占領から街を解放し数千平方キロメートルに及ぶ領土を奪還した。各国の安全保障面での支援や訓練などの取り組みは不可欠だった」と述べました。

会合ではウクライナのレズニコフ国防相も参加して戦場で必要な兵器などについても協議し、ウクライナに対して各国が長期的に軍事支援を続けていくことを確認しました。

オースティン長官は会合のあとの記者会見で「ウクライナは東部と南部でかなりの領土を奪還していて、このような活動は冬の間も続くと思われる」と述べこの冬も戦闘が続くことを前提に支援を続ける必要があると強調しました。



オースティン米国防長官

●クリミア橋爆発モチーフのパネル登場 キーウ(2022年10月11日)

【10月11日 AFP】ウクライナ南部クリミア(Crimea)半島とロシア本土を結ぶクリミア橋で8日、爆発が起きたのを受け、ウクライナの首都キーウ中心部に同日、早くも爆発をモチーフにした切手の大型パネルが登場し、写真撮影する人々の姿が見られた。

デザインは、アンドルシフ・V、セルドゥコフ・O、カリノウシカ・Y、ビシチ・M の各氏が手掛けた。



※安齋注:遊び半分だなあ…

●プーチン大統領 報復攻撃を開始 ロシア連邦安全保障会議(日本語字幕付き、2022年10月10日)

<https://www.bitchute.com/video/BpixtOogGCjJ/>



●ゼレンスキーはただいま撮影中(2022年10月13日)

ウクライナ紛争は、人類の戦争史上最もプロパガンダ的なものであった。多くの人が推測し、「陰謀論者」と呼ばれたように、ゼレンスキーと彼のハンドラーは、勇敢な戦時指導者の虚像を映し出すためにグリーンスクリーンを録画していることが、今、わかったのです



●暴露:ウクライナがケルチ橋を爆破する前に、イギリスのスパイがそれを計画していた(2022年10月10日)

<https://thegrayzone.com/2022/10/10/ukrainian-kerch-bridge/>

クリミアのケルチ橋を爆破するという英国諜報機関の極秘計画が、The Grayzone が独占入手した内部文書と通信で明らかになりました。

The Grayzone は、特別に訓練されたウクライナ人兵士を巻き込んでクリミアのケルチ橋を爆破するという精巧な計画を練った、英国情報機関の上級士官向けに作成された 2022 年 4 月のプレゼンテーション資料を入手しました。この計画が流布されてから約半年後、ケルチ橋は 10 月 8 日の自爆テロで攻撃され、ウクライナの情報機関 SBU が監督していたことが明らかになった。

キエフの「海上襲撃作戦」を「大胆に」支援するための詳細な提案は、英国陸軍の上級諜報員でベテラン NATO 高位顧問のクリス・ドネリーの要請で作成された。その計画の核心は、「ケルチ海峡の橋の破壊」であった。

この作戦を企図した文書や通信は、匿名の情報源からザ・グレイゾーンに提供された。

ケルチ橋のトラック爆撃は、その中に描かれていた計画とは作戦上異なるものであった。しかし、このような攻撃計画に対する英国の明白な関心は、ウクライナの代理戦争に NATO 諸国が深く関与していることを強調している。今年 4 月、ロンドンがキエフとモスクワの和平交渉を妨害したと報じられたほぼ同時期に、英国の軍事情報機関の職員は、1 日に何千人もの民間人が渡るロシアの主要な橋を破壊するための青写真を描いていた。

ロードマップを作成したのは、英国軍の退役軍人ヒュー・ワードだ。黒海でウクライナが「ロシアの海軍力に脅威を与える」ための戦略がいくつも示されている。キエフを封鎖するロシアの能力を「低下」させ、モスクワの「戦闘能力」を「侵食」し、「ケルチ橋経由の海上および陸上の補給を拒否する」ことによってクリミアのロシア陸海軍を孤立させることを目指すと、最優先事項として記載されている。

ワードは電子メールでドネリーに「この文書を守ってください」と頼んだが、その理由は容易に理解できる。これらの様々な計画の中で、「ケルチ橋襲撃 CONOPS(作戦の概念)」だけが、ワードの報告書の最後に専用の付属文書があり、その重要性が強調されている。

その内容は、重大な戦争犯罪を構成しかねない行為の直接的かつ詳細な擁護にほかならない。重要なのは、主要な旅客ブリッジを破壊する方法について、民間人の犠牲を避けるという言葉がないことである。

図とともに 3 つのページに渡って、著者は「任務」の条件を綴っている。「大胆な方法でケルチ橋を無力化し、クリミアへの道路と鉄道のアクセスとアゾフ海への海上アクセスを混乱させる」のである。

ワードは、橋を破壊するには、「巡航ミサイルの砲台が中央の鋼鉄アーチの両側の 2 本のコンクリート柱に命中し、完全な構造破壊を引き起こす必要がある」、「ロシア本土からクリミアへのあらゆる道路の再供給を妨げ、航路を一時的に(中略)混乱させる」と示唆しています。

また、橋の柱の「重要な弱点」と「設計上の欠陥」を狙う「攻撃型ダイバーチームまたはリムペット地雷と線形切断装置を搭載した UUV(無人水中ロボット)」という「計画」もある。

この「欠陥」とは、橋の下を強い潮流が流れても摩擦が少ないようにと、「メインスパンを支えるために使われているいくつかの細い支柱」のことである。ワードが指摘するのは、柱の周りの水深がわずか 10 メートルしかなく、構造上「最も弱い部分」であることだ。

The Grayzone が入手した関連電子メールの中で、英国陸軍の上級諜報員で元 NATO 顧問のクリス・ドネリーは、この提案を「実に印象的だ」と断言した。

電話で連絡を取ったヒュー・ワード氏は、クリス・ドネリー氏のためにケルチ橋破壊の青写真を用意したことを否定しませんでした。

ワード氏は、「大胆な」計画を起草したかどうかを直接尋ねられたとき、「私はクリス(ドネリー氏)と話し、彼が私が発表するために準備したものを彼に確認するつもりだ」とグレイゾーン紙に語った。

この青写真に自分がどのような役割を果たしたか、もう一度確認するよう求められたワード氏は、しばし沈黙

した後、こう答えた。「確認できません。クリスと話し合ってからだ」。

40 億ドルの大動脈を襲った自爆テロ

10 月 8 日未明、ケルチ橋が焼夷弾の攻撃で損傷した。トラックが爆発し、石油タンカー 2 台が炎上、クリミア行き
の 2 本の橋が海中に崩落し、3 人が死亡した。

この事故はすぐに修復され、翌日には通行が再開されたが、西側メディアはこの事故をウクライナとの紛争に
おけるロシアの最新の困惑と失敗として賞賛した。場合によっては、民間人の命を奪った戦争犯罪と呼ぶにふ
さわしい行為に、ジャーナリストたちは公然と喝采し、冗談を飛ばした。

この自爆テロは、40 億ドルをかけて建設されたクリミアとロシア本土をつなぐ構造物を標的とし、その開通
はクレムリンにとって大きな広報上の勝利をもたらし、ロシア語圏の大多数を占める領土に対するモスクワの
新たな支配を強化することになった。

2018 年 5 月の除幕式で、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は次のように発言した。

「異なる歴史的エポックにおいて、ツァーリ神父の時代でさえ、人々はこの橋の建設を夢見た。そして、1930
年代、40 年代、50 年代と、彼らはこれに立ち戻った。そしてついに、あなた方の仕事と才能のおかげで、奇跡
が起きたのです。」

橋は 2 月 24 日以来、厳重に防衛されている。とりわけ、ウクライナに駐留するロシア兵への軍事装備の主要
輸送ルートとして機能しているためである。ロシアは以前から、この橋が攻撃された場合、大規模な報復を行う
と約束していた。

この攻撃を受けて、ウクライナ人、ウクライナ当局、ウクライナ支持者の間では、ソーシャルメディア上で幸福感
が広がっている。ウクライナの国家安全保障・防衛評議会議長であるオレクシー・ダニロフ氏は、燃え上がる橋の
動画と、マリリン・モンローが「ハッピーバースデー、ミスタープレジデント」を歌う白黒の映像を投稿したが、こ
れは同日プーチン大統領が 70 歳になることにちなんでいる。

さらに、ウクライナのメディアは、「法執行機関の」匿名の情報源を通じて、この攻撃はウクライナ治安局によっ
て行われたと報じている。しかし、大統領首席補佐官 Mykhailo Podolyak を含むウクライナの高官たちは、
この事件はロシアの偽旗であると主張し、現在では撤回を図っている。

このような主張は、ノルドストリーム・パイプラインの爆発事故など、ウクライナ、あるいは欧米が犯人である可
能性が高い、あるいは確実にあると思われる事件の後には、よく見られるようになった。

第三次世界大戦の基礎固め

ケルチ橋の攻撃には、専門の潜水士や水中ドローン、巡航ミサイルは使われなかったが、ウォードの計画はウ
クライナ政府の最高レベルで共有されていたことがうかがわれる。実際、クリス・ドネリー氏はこの計画をリトア
ニアの元国防大臣オードリアス・ブトケヴィチウス氏に転送し、2 人を電子メールで紹介したのである。

リトアニアの反共産主義運動の中心人物であったブトケヴィチウスは、1991 年 1 月 13 日に独立派の兵士
を故意にソ連の狙撃兵の射線に導いたことを認めている。この事件はヴィリニユスの「血の日曜日」と呼ばれ、
公式には「自由の擁護者の日」として観測されている。ブトケヴィチウスとその仲間、この作戦が大量の死傷
者を出し、地元住民のソ連指導者に対する反感をさらに高め、政権交代を促すことを知っていたからこそ、この
作戦を画策したのである。

最近では、ブトケヴィチウスは、ドンバスの内戦で使用するために、「ブルガリアの武器と弾薬を第三国を通じ
てウクライナに供給する主要な仲介者」としての役割を果たしたブルコマース KS 社を共同所有しています。

ブトケヴィチウスは、英国諜報機関のために働いているという信憑性のある告発を受けている。ドネリーとの
電子メールのやりとりでは、悪名高いトランプとロシアの「文書」作成者クリストファー・スティールと同時にロ
ンドンのモスクワ大使館に赴任していた長年の MI6 職員、ガイ・スピンドラーと接触していることが確認されて
いる。

ケルチ橋破壊の「オーダブル」計画を検討したかと電話で聞かれたスピンドラーは、ザ・グレイゾーンにこう答
えた。「何を言っているのか全くわからない」

現代の記録では、スピンドラーは 1991 年 8 月にミハイル・ゴルバチョフに対するクーデターに失敗した際
に、ボリス・エリツィンと直接調整を行ったとされている。

●ドイツの市民運動(2022年10月13日)

ドイツでは 83,000 人がロシアとの戦争に抗議と「ユンゲ・ワールド」紙。これまでのところ、抗議は主に東部地域に限られている。旧東独以外では、独人はまだ公式のプロパガンダを信じる傾向が強い。月曜、東部を中心に、数万人の人々が再び値上げとエネルギー政策に抗議した。



●米下院選挙での共和党勝利とウクライナ戦争支援の今後(2022年10月13日)

共和党は「一般的にウクライナを支持」しているが、援助が現場でどのように使われているのかの疑問への答えを要求している。この 10 月 12 日、米下院選挙で共和党が勝利したことで、ウクライナへの人道または軍事的援助の将来的提供の決定プロセスが複雑になる可能性がある、という。

